

教材名 ときどき、わくわく、できるかな？ ～ラッキーBOX～

作成者
須山 真理子

学部 幼稚部 年長
授業名 個別の課題学習



幼児の実態

文字や絵をかくなど、指先を使う活動には、進んで取り組むが、指先の動きや力加減などは難しい。以前にうまくできなかった経験があったり、自信がなかったりすることには、進んで取り組もうとしない。

ねらい

- 苦手な活動にも、挑戦しようとする。
- 指先を使う動作につながるような、体全体を動かす運動に取り組む。

教材の使い方

- 1 ラッキーBOXを振る。
- 2 出た棒の文字を読む。
- 3 棒に書かれた動作や活動に取り組む。
- 4 チャレンジ表にシールを貼る。

工夫したこと

- 楽しんで取り組めるように、何が出るか分からないという、ゲーム的な要素を取り入れたこと。
- 好きな活動が自分で選べる「ラッキー棒」を入れたこと。
- 棒を出すためには、「BOXを振る」という動作を伴うこと。

幼児の様子

- 「あっ、でた。」などと言い、わくわくしながら取り組む姿が見られた。
- 苦手なことでも、楽しみながら進んで取り組む姿が見られ、継続するうちに、動作がスムーズになったり、体の使い方が上達したりした。
- できるようになった活動を、遊びの中でも取り組むようになった。

教材名	じょうずにできるかな やさいをわけよう
-----	------------------------

作成者	古屋 郁子
-----	-------

学部	幼稚部 年中
授業名	個別の課題学習



幼児の実態

- 数字を読んだり，書いたりすることができる。
- 「これなあに。」と質問すると「これなあに。」と同じように繰り返し，「〇〇かな。」と教師が言うと答えることができる。

ねらい

- 教師が提示した野菜の写真カードやミニチュアの名称を言ったり，写真カードと同じ物を選んだりすることができる。
- 数を数えて，野菜のミニチュアをトレーに分けることができる。

教材の使い方	工夫したこと
--------	--------

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 教師が提示した写真カードの名称を言ったり，ミニチュアの数を数えたりする。 2 野菜のミニチュアをトングではさむ。 3 野菜のミニチュアの個数が写った写真カードと同じ数ずつトレーに分ける。 | <ul style="list-style-type: none"> • 身近な野菜のミニチュアを使い，教師とやりとりをしながら興味をもって取り組むことができるようにした。 • 給食の補助箸を上手に使うことができるように，指先を使ってトングではさむようにした。 • 数字やドット，写真カードで数が分かるようにした。 |
|---|--|

幼児の様子

教師が写真カードや野菜のミニチュアを提示すると，自分で指さしながら名称を言ったり，数を数えたりして取り組む姿が見られた。

教材名 好きな言葉でしりとりしよう

作成者

塚田 直也

学部 幼稚部 年長

授業名 自立課題



幼児の実態

平仮名 50 音，片仮名 50 音を読むことができる。自分の好きな言葉を一方的に伝える姿が見られる。しかし，自分の好きな言葉を教師と掛け合うことや，数語であれば逆さ言葉遊び，しりとりを楽しめるようになってきている。

ねらい

- カードに書かれた文字をしりとりの順に並べることができる。

教材の使い方

- 1 カードの文字を読む。
- 2 カードをしりとり順に並べる。

工夫したこと

- 書かれている文字に興味をもてるように，本児の名前，本児の好きな言葉を用いた。
- 前後の文字と選択肢の文字を見比べ，次の文字を考えることを促すために，始めの文字が同じ単語を二つ入れた。

幼児の様子

自分の名前や自分の好きな言葉がカードに書かれていることで，「～君！（自分の名前）」，「まめた！（好きな絵本の登場人物）」などと文字を読みながら，しりとりに取り組む姿が見られた。始めの文字が同じ単語を，前後の文字を見比べて選ぶ場面では，何度も前後のカードを入れ替え，自分で考えてしりとりを完成させることができるようになった。

教材名 「ぽんぽん」入れよう！！
(プットイン課題)

作成者
飯島 杏那

学部 幼稚部 年中
授業名 自立課題



幼児の実態

- 木やプラスチック製のおもちゃを、口元に当てて感触を楽しんだり、両手の指先を使って頬の高さ辺りで転がしながら遊んだりすることが好きである。
- ぼこぼことした手触りの物やゴムなど、質感の違う物を指先でなでて違いに気付いたり、確かめたりするようになってきた。
- 一つの課題に集中する時間は短いですが、教師の言葉掛けによって続けて課題に取り組む姿が見られる。

ねらい

- 指先を使って、ケースの中に筒を入れることができる。
- 課題の終わりが分かり、一人で取り組むことができる。

教材の使い方

- 1 一列に並んだ、三つの筒をケースの中に入れる。
- 2 プットイン課題が入ったかごを、棚の向きに合わせて片付ける。

工夫したこと

- ケースに入れる筒の数が分かりやすいように、縦一列に筒を配置した。
- 口元に筒を運ぶことが少なくなるように、ぼこぼこしている段ボール紙を筒に巻くようにした。
- 興味をもたせるために、重さが異なる玉や音の鳴る玉を使ったプットイン課題も用意した。

幼児の様子

一列に並べた筒を、教師からの言葉掛けがなくても、一人でケースの中に入れて終わることができるようになった。

教材名 木琴の階段（大・小）

作成者

加藤 敦

学部 幼稚部

授業名 音楽遊び



幼児の実態

ボールを転がしたり、転がる様子を見たりして遊ぶことが好きな幼児が多い。「ピタゴラスイッチ」が好きで、積み木やブロックなどを使い、コースを作って木の玉やビー玉を転がして遊ぶ様子が見られる。

ねらい

- 木琴の音に興味をもつ。
- 教師や友達と一緒に教材を介して遊ぶ。
- 因果関係が分かり、自ら工夫して教材を使って遊ぶ。

教材の使い方

- 1 木の玉を転がして遊ぶ。
- 2 木琴を並べ替えて、木の玉を転がして遊ぶ。

工夫したこと

- 木の玉が木琴のコースから外れても下の箱に集まるようにした。
- 木琴と土台にマジックテープを付け、子どもが木琴の音階を並べ替えることができるようにした。さらに、子どもが自分たちで教材を扱っても、並べた木琴がずれないようにした。

幼児の様子

遊び方が分かると、繰り返し木の玉を転がして遊んだり、自らかごを持ってきて木の玉を集めて一度にたくさん転がして遊んだり、木琴を並べ替えて木の玉を転がし、音の違いを楽しんだりする様子が見られた。